

エアアジア・グループ(AIRA)

デジタル部門の売上構成比 6 割へ。エアアジア X の債務減免とアセアンの国内外移動制限の解除が追い風へ
マレーシア | 旅客航空 | 業績フォロー

フィリップ証券株式会社

BLOOMBERG AAGB | REUTERS AIRA.KL

- 2021/12 期 3Q (7-9 月) は、総売上高が前年同期比 36.9%減、調整後 EBITDA、調整後税引き前利益が赤字幅拡大。国内移動制限が響いた。
- セグメント別売上高は、航空事業グループが同 70%減の一方、デジタル部門が同 2.4 倍と拡大して売上構成比で約 6 割に達した。
- エアアジア X が債務減免で大口債権者と合意のほかアセアンで国内外の移動制限解除の動きが相次ぐ。業績反転回復への追い風となる。

What is the news?

11/22 発表の 2021/12 期 3Q (7-9 月) は、総売上高が前年同期比 36.9%減の 2.96 億 MYR、リース航空機の使用権資産に係る減価償却費や金利費用、燃料のヘッジコストや売掛債権に係る減損損失などの一時的要因を除いた調整後 EBITDA が前年同期の▲1.23 億 MYR から▲2.81 億 MYR へ、調整後税引き前利益が同▲8.73 億 MYR から▲8.95 億 MYR へ赤字幅拡大。デジタル部門の売上が拡大したものの、新型コロナのデルタ株感染拡大に対応してマレーシア、インドネシア、およびタイが厳格な国内の移動制限を敷き、国内線が再度の減便を余儀なくされたことが響き減収。人件費その他営業費用を含む固定費を同 23%削減したものの、赤字幅拡大となった。前四半期比では、総売上高が 20.1%減、EBITDA が▲2.07 億 MYR から、純利益が▲5.80 億 MYR からの赤字幅拡大となった。

3Q の事業セグメント別の業績は以下の通り。①航空事業グループは、売上高が前年同期比 70%減の 1.18 億 MYR、調整後 EBITDA が前年同期の▲1.23 億 MYR から▲2.81 億 MYR へ赤字幅拡大。費用削減のほか、座席利用率がフィリピン・エアアジア (PAA) の寄与により同 1 ポイント上昇の 67%となったものの、減収分を吸収できなかった。②デジタル部門 (エアアジア・デジタル) は、売上高が同 2.4 倍の 1.78 億 MYR。その内、物流を手がける Teleport が同 2.8 倍の 1.57 億 MYR、「Airasia.com」プラットフォームの Airasia Super App が同 6.9%増の 1,432 万 MYR、決済を手がける BigPay Group が同 26.3%増の 540 万 MYR となった。

How do we view this?

3Q のデジタル部門は、シェア獲得のための先行投資費用が嵩んで EBITDA が前年同期比で赤字幅拡大となったが、売上高で航空事業グループを超えるなど、デジタル化を柱とする事業再編に進捗が見られた。

9 月末で債務超過額が 59 億 MYR と昨年末の 35 億 MYR から膨らんだが、11/12 に同社傘下の中長距離線専門のエアアジア X が約 336 億 MYR の債務を大幅に減免する再建計画について欧州エアバスなど債権者から合意を得たと発表。マレーシアは 10 月前半に入国規制や州を超える移動規制の緩和を発表したほか、タイも 11 月からワクチン接種などを条件に 63 カ国・地域から入国者の隔離義務を免除。同社への追い風となる。

業績推移

※参考レート 1MYR=27.32円

事業年度	2018/12	2019/12	2020/12	2021/12F	2022/12F
売上高 (百万MYR)	10,638	11,860	3,131	1,665	5,894
当期利益 (百万MYR)	1,967	-315	-5,111	-2,517	-971
EPS (MYR)	0.59	-0.09	-1.53	-0.60	-0.19
PER (倍)	1.71	-	-	-	-
BPS (MYR)	2.33	1.35	-0.36	-0.86	-0.91
PBR (倍)	0.43	0.75	-	-	-
配当 (MYR)	0.12	0.12	0.00	0.00	0.00
配当利回り (%)	11.88	11.88	0.00	0.00	0.00

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg)

配当予想 (MYR) 0.00 (予想はBloomberg)
終値 (MYR) 1.01 2021/11/24

会社概要

ワナー・ミュージックのアジア地域役員だったトニー・フェルナンデス氏が2001年に創業。マレーシアのクアラルンプール国際空港を拠点として多くのグループを企業を抱える世界屈指の規模のLCC (格安航空会社) である。マレーシアのほか、タイ、インドネシア、フィリピン、インド、および日本で事業を展開していたが、2020年12月に日本事業を廃止し、2021年にはインド法人の株式の大半を売却した。

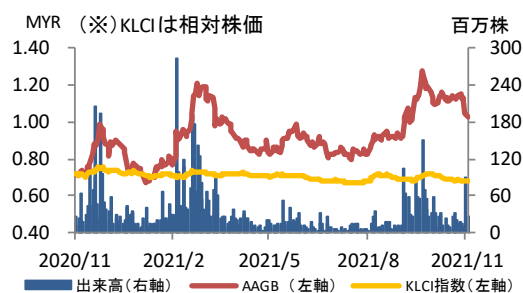
同社グループは、①航空事業グループ、②デジタル部門の2事業部門セグメントから構成される。

航空事業グループ部門は、マレーシア・エアアジア (MAA)、インドネシア・エアアジア (IAA)、フィリピン・エアアジア (PAA) のほか、タイ資本のアジア・アビエーションを筆頭株主とするタイ・エアアジア (TAA)、およびその他の関連会社および合併事業を傘下に擁する。

エアアジア・デジタル社が担うデジタル部門は、物流を手掛ける「Teleport」、オンライン販売のプラットフォームである「Aiaasia.com」を運営する「Aiaasia Super App」、決済事業を営む「BigPay Group」の主要3事業とするほか、その他のデジタル事業を営む。

企業データ (2021/11/25)

ベータ値	1.63
時価総額 (百万MYR)	3,898
企業価値=EV (百万MYR)	15,878
3か月平均売買代金 (百万MYR)	31.7



主要株主 (2021/11)

1.TUNE AIR SDN BHD	(%) 13.25
2.TUNE LIVE SDN BHD	13.06
3.POSITIVE BOOM LIMITED	8.53

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

リサーチ部

笹木 和弘
kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp
+81 3 3666 6980

2021年11月25日

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL:03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平 14.1.25」に基づく告知事項>

・ 本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。